

□議員名：衛藤弘光

1 災害に強いまちづくりについて

論点	市内 58 カ所の避難場所で、東南海地震での津波波高の 4m に対応できる避難場所は何カ所あり、対応できない場所はどのような対策をするのか。また、今はほとんどが住宅地になっている小野田開作内の津波対策として、民間ビルの屋上を緊急時に協力してもらえるよう検討できないか。
回答	津波波高の 4m に対応で避難場所は、旧小野田地区は 17 カ所、旧山陽側は 20 カ所で、全体の 64% である。当面津波情報を市民に迅速かつ正確に伝えるため、防災メールや防災ラジオなどの普及に努めたい。また、自治会などで出前講座などで津波に対する知識習得と避難経路の確認など、訓練の必要性を啓発する。 また、民間ビルの強固な建物への避難場所については、今後の課題としたい。

論点	市内の住宅で、1982 年の建築基準法の改正後耐震化の状況は。
回答	平成 20 年の住宅土地統計調査によると、市内の住宅戸数は全体で 2 万 4,560 戸、そのうち木造が 1 万 2,890 戸、非木造 1 万 1,670 戸であり、1981 年以前の建築物は 9,710 戸、1981 年以降の建物が 1,670 戸となっています。つまり、1981 年以降の耐震性のある住宅は、耐震化されているとの事で、耐震化率は 60.46% である。

2 再生可能エネルギーの利用促進への取り組みについて

論点	第一次山陽小野田市総合計画の改訂版によろやく、再生可能エネルギーの利用促進の取り組みがあげられたが、何部の何課が取り組まれるのか。
回答	企画課で、一生懸命取り組む。